



『真っ直ぐに力強く』

三種町長 三浦正隆

新年おめでとうございます。

日頃、町政に特段のご理解、ご協力を賜り衷心よりお礼申し上げますとともに、新しい年が皆様にとって、明るい年でありますことをご祈念申し上げます。

昨年は東日本大震災が発災し、未曾有の被害が発生しました。被災地の復旧復興は徐々に進められているものの、原発問題は解決の先行きがなかなか見通せない状況です。被災地の直接的被害のみならず、被災地以外でも間接的な被害の規模も大きく、風評被害や自粛ムードによる観光飲食関連業における来客減、資機材供給の減少や電力不足等による生産活動の停滞など、非常に厳しい影響を受けました。

今回の大震災の教訓を生かし災害が発生した場合、地域住民の命を守り被害を最少限におさえるため、防災体制の充実強化に努めたいと考えております。津波ハザードマップの整備については既に着手しており、完成後は全世帯に配布の予定です。

さて、町の基幹産業である農業振興ですが、水稻を中心とした複合的経営を進め、経営規模の拡大や戦略作物等に注力したいと考えております。また、圃場整備やじゅんさい田の改良など生産基盤の整備についても今後必要になるかと思っております。特にじゅんさいについては国内産生産量の80～90パーセントを占めていることから、トップ産地である優位性を発揮して有利販売につなげ、生産農家の手取り増加を計ることが大事です。町として引き続き基幹産業である農業に対し支援を行って参りますので、本町農業行政へのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

懸案のTPP問題ですが、アメリカ・オバマ大統領と日本の経済界の力に押されて、野田総理は参加を表明いたしました。国論を二分するこの問題が、簡単に結論づけられることは民意に反すること明らかであります。TPP参加は地域経済・社会を崩壊させるものであり、過疎に喘ぐ地方自治体においては断固反対するべきものと考えております。

ところで、老朽化が著しい琴丘総合支所と琴丘公民館については、目下、新築の方向で検討しております。また、できるだけ町の持ち出しが少なくなるような有利な建設方法を模索しております。工法につきましても、豊富な森林資源を有する本町らしい木材を主体とした建築物をと考えております。併せて、地域の賑わいを失うことの無いよう建設予定地につきましても十分配慮して進めて参りたいと考えております。

ご存じのように地方の財政は、地域経済の低迷に伴う税収の低下や国の財政状況の回復が見込めないなど今後の状況は不透明であります。さらに、昨年一部導入された一括交付金の制度設計や、地方交付税制度の起債元利償還算入見直しの動きもあり、地方への影響も甚大であることから、その動向には十分注視していく必要があります。本町の財政状況について見ますと、厳しい財政状況に対応し効率的で効果的な自治を目指すため「三種町行財政改革推進計画」を実施したことや、国の地方財政計画による地方交付税の増額により、最悪の財政状況は脱出したと認識しております。

平成24年度の重点事業としては、既存事業の見直しによる選択と集中を徹底することにより、①生活環境施設の整備（自治会要望等への対応）②少子化対策の推進（福祉医療費の拡充等）③雇用対策推進事業の継続（県の緊急雇用対策事業終了への対応）④公共施設の改修整備（耐震対策、リニューアル等）⑤地域資源活用産業振興への取り組み（特産品振興対策等）を重点施策として位置づけながら取り組む予定です。

平成24年は辰年です。町も昇り龍にあやかり大いに飛躍する年にしたいと思います。まだまだ、課題・問題はたくさんありますが、三種町発展のため今年も真っ直ぐに力強く歩んで参りますので、何卒ご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

皆様のなご一層のご多幸を御祈念申し上げて新年のご挨拶と致します。